

令和元年度 藤枝順心中学校・高等学校 学校評価(前期) (評価基準 A:十分に実践されている B:ある程度実践されている C:不十分である D:分からない)

建学の精神 女性の自律・自主と先度他の心の涵養						
教育目標 白梅精神のもと、「清楚な生徒」、「芳香を発する生徒」、「忍耐のできる生徒」を育てる。						
本年度の重点目標 ①学習指導の充実 ②進路指導の充実 ③生活指導の充実 ④情報発信の充実 ⑤健康管理 ⑥安全管理						
重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
①学習指導の充実	アクティブ・ラーニング	・大学入試改革に向けて、アクティブ・ラーニング、ICTを利用した授業を実践する。 〔5教科による、年2回の研究授業を行い、全職員で授業検討会を行う。 (前期はICTを利用)〕	B	・代表者3名(数学・理科・総合)の一斉研究授業を7月に実施。全職員が見学し、その後、検討会を行う。このケースは初めてであったが、手探りの中、一步が踏み出せたと思う。 ・教科の特性やクラスの現状、雰囲気を考えながら、より効果的な授業を模索している教員が多いと思う。 ・昨年度購入した各教科1台のアイパッドも活用され、実践例が増えている。その蓄積を今後に生かしたい。 ・研究授業の準備の段階から、教科、研修委員の話し合いが必要か。	B	・アクティブラーニングへの取り組みは、前年度に引き続き研究授業を実施するなど着実な進捗が図られています。 ・iPadの増台など、ICT環境の整備がまだまだ不十分な気がします。 ・全職員での検討会、是非生かして欲しいと思います。 ・職員研修が大切になるかと思います。
	学力分析と学習方法の考察	・ベネッセの到達度テスト(基礎力診断テスト及びスタディサポート)の結果から、学力の抜け漏れを確認しそれを補う指導をする。 ・各学年で、生徒に学習させる方策を検討し、実践する。 [学力の質・量の向上]	B	・ベネッセの学力指標「GTZ」は、定着してきている。事前教材の指導は、配布・呼びかけだけでなく、朝学習でのチェックなど改善がみられている。結果を利用した指導は不十分である。 ・朝テスト(計算・漢字・英単語)を行い、学習習慣定着の方策とした。合格するまで、再テストまたは課題を与え、生徒への自覚を促している。 ・学年で復習シートを実施。クラスにより継続性に差がある。 ・中高部では週1回、4・5年生を対象に8限を実施。 ・中学生の放課後学習を週2回にし、内容も充実してきている。	B	・クラスにより継続性に差があるという評価は、学力の定着に直接つながることでもあり、改善の必要性があると思います。 ・朝テストは有効です。続けることと合格するまでの再テストは大切だと思います。 ・朝テストのための勉強はしているが、宿題が少ないので、家庭学習時間が少ないように思います。 ・学力レベルのさらなる向上を図るための事後の対策は重要であり、掲げた目標を達成できるよう、結果をもとにした指導の充実をお願いします。
②進路指導の充実	就職指導	・3年後の就職を意識させ、3年間を見通した指導計画を提示。 ・希望する企業から説明を受ける機会を設ける。(本校に20社程度来校する予定) ・職場見学や卒業生等による講話を通して、会社への理解を深め社会人になることへの意識高揚を図る。 ・徹底した面接指導及び基礎学力の充実を図り、希望する会社への内定を勝ち取る。	A	・就職希望者数69名、内定者数66人。(10月8日現在) ・企業説明会を2・3年生を対象に、本年も実施。(16社)企業理解に役立った。 ・夏季休業中は、ほぼ毎日、面接指導や筆記試験対策を学校をあげて実施した。 ・3年以外の多くの先生方が面接指導にかかわるシステムは大変良いと思う。より効果的なものにするために、さらに、工夫が必要か。 ・卒業生に、指導・アドバイス受ける場合は効果的であり、継続すべきである。 ・1年生の場合は、基礎学力・基本的生活習慣の定着・進路研究などに取り組んでいる。 ・「就職に強い順心」、この強みはアピールしていきたい。	A	・早い時期での内定率も高く評価できます。生徒の努力の結果であることはもちろんですが、企業訪問や就職指導を粘り強く行った先生方の成果だと思います。 ・中学校関係者からも、順心の就職については高く評価されています。今後も大いにアピールしていただきたいと思います。 ・「就職に強い順心」を作り上げたのは、礼法を勉強し作法を身につけた卒業生、その卒業生を指導した先生方の努力が今も続いているからだと感じます。
	進学指導	・国公立大学&中堅以上私大推薦AO入試合格4名、一般入試合格4名(センター試験70%を目標として実力養成) ・高大接続改革(CBT・論述問題ポートフォリオ)への対応 ・高校基礎学力テスト(到達度テスト)への対策(基礎力診断テスト・スタディサポートの活用) ・進路ガイダンスの改善・充実。 ・外部模試の準備・受験・復習の充実(ラーニングシステムの利用) ・スコラで計画的な学習習慣を、スタディサプリと受験対策講座で学力をつける。	B	・個別対応(面接練習・入試問題指導)は、細かにできているが、全体への受験対策、進学率を伸ばす対策は工夫が必要。 ・進路講演会の内容の充実度は高いと思う。 ・高大接続改革への対応は、CBT、ポートフォリオとも現2年生が体験、実践をしている。 ・来年度「特別進学コース」を新設し、進学の核とするので、これをきっかけに本校の進学を変えていきたい。そのためには、今までと何をどのように変えていくのか、具体的に見える形のものを検討していく必要がある。 ・現在、AO入試、推薦入試が始まっているが、本年は国公立大学に11名が推薦入試から挑戦の予定。 ・就職希望者対象の指導ほど体系化されていないが、進学希望者に対してもHR担任を中心に、多くの先生方の力を借り、指導している。次年度からの入試改革に向け、引き続き研究を進めていく。	B	・特別進学コースの新設や国公立大学入試への挑戦など、進学に対する改革や明確な方針を示すことはいいことだと思います。 ・特別進学コースの、明誠との違い、英語への対策、順心ならではの行事など具体的な特色を示すべきではないでしょうか。 ・AO入試、推薦入試だけでなく、一般入試に対応できる学力をつけたいです。 ・進路研究(大学選び・オープンキャンパス等)を、もう少し早い時期から始めたほうが良いように思います。 ・夏休み等を利用しての、勉強合宿の実施はいかがでしょうか。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
③生活指導の充実	礼法教育の実践	・「your steps」に従い美しい所作を指導する。（椅子の掛け方、歩き方、ドアの開け方お茶の入れ方など） ・会食指導は礼法にかなった食事作法を実践する。 ・会釈・挨拶の励行をし、場に応じた挨拶の指導をする。 ・「授業をする上での留意すべき事項」に従い、礼法指導に即した授業実践をする。	B	・生徒の挨拶の様子を見ると、近年、意識の希薄さを感じる。再度、「礼法の順心」を立て直す必要がある。 ・学年が上がるにつれ、基本的なマナーが身についていくように感じる。他校と比べれば、よくできている。 ・通常は礼法の授業において学んだことを、お茶当番や講話の時間、会食や普段の生活の中できちんと実践された。 ・全般的に気持ちのよい生徒が多いが、行動、言葉遣い、服装など改善の余地は多くあると感じる。 ・中学生にも、「礼法」の教科書が必要ではないか。	B	・礼儀正しさは、将来に向けて、今、身につけておくべき大切なことだと思います。 ・日常生活の中で基本的なことでするので、習慣づけを行ってほしいです。 ・礼法を勉強できて良かった、私たち卒業生は感謝しています。これからも、社会に出ていく子供たちに指導していくことで、素晴らしい日本の文化、作法を伝えてください。 ・礼法教育の大切さを認識していない親が、多くなっているような気がします。残念なことですが、それを前提に根気よく指導するしかないと思います。 ・他校と比較することは無意味だと思います。順心プライドとして生徒に訴え続けていくことが大切だと思います。
	生徒指導	・「情報収集→まとめ→分析→報告」を繰り返し、教師相互の共通理解を図り、指導にあたる。 ・一報を通して迅速な情報共有に努める。 ・週番活動を通して校風高揚に貢献する姿勢を指導する。 ・校風向上週間、マナーアップキャンペーンで清楚な身なりを指導する。 ・清掃活動を通して環境美化に努め、施設を丁寧に使用することを指導する。 ・教室内の整理整頓を通して私物の管理を正しく行い、清潔な生活感覚を育てる。	B	・一報を通じて、情報共有ができています。 ・校風向上週間、マナーアップキャンペーン期間にかかわらず、服装髪型など基本的な指導を徹底していきたい。 ・清掃指導について、教員側の研修が必要である。 ・清掃に取り組む姿勢が、個によって差が大きいように感じる。全員が真摯に清掃できるように指導したい。 ・週目標のマンネリ化、くり返しが気になる。	B	・身だしなみについては、様々な行事で姿を見ていますが、きっちりしていると感じます。 ・他の学校に比べると、きれいに清掃されているように思います。 ・黙動清掃を導入したらどうでしょうか。全員が真摯に清掃できるようになります。 ・週番の週目標のマンネリ化は、生徒が主体的に取り組む方策を講じることが大切のように思います。 ・永平寺中学校の清掃は、一見の価値あります。
④情報発信の充実	学年通信 学級通信	・通信を、学年主任・担任と保護者とのコミュニケーションの一つと捉え、学年・学級の状況を伝える。 〔月1回発行〕	B	・毎月発行できている。 ・月1回の発行が、時々滞ることがある。 ・県外生の保護者への郵送、また、HPへアップするなどのことも必要ではないか。	B	・通信で、毎月の様子を知ることができています。 ・月1回の発行は、滞ることがないようにしていただきたいと思います。 ・お忙しい中、学級通信・学年通信の発行ありがとうございます。
	オープン キャンパス	・オープンキャンパスは年2回実施し、担任とのコミュニケーションを図る機会とするなど学校理解の促進に努める。 〔参加率70%達成をめざす〕	B	・参加率28%（5月11日～16日実施） ・オープンキャンパスを通じて、普段の学校生活を伝えることができている。しかし、参加率は低い。 ・前期は、保護者が学校に来る機会が多く、参加率は低くなる。後期は工夫をして参加を呼び掛けたい。	B	・実施結果について検証し、今一度、目的を明確にしたうえで、実施方法や指標の見直しが必要だと思います。 ・参加率が低迷していることが気になります。 ・一週間オープンキャンパスをやるより、日にちが決められている授業参観の方が参加率が高くなるように思います。
	ホームページの活用	・情報発信のタイムリー性と実用性の向上 ・学年・分掌・教科内での原稿作成者決定（行事、検定等） ・各行事の更新担当を明記 ・部活動記録の月毎の更新	B	・説明会など、HPを見ての来校者が多いように思う。しっかり定着していると感じている。 ・部活動の結果など、迅速にアップされていてよいと思う。 ・フェイスブック・Twitter・インスタグラムなどうまく活用すれば、もっと情報の発信になるように思う。 ・今後、急な変更や通知が必要な場合、変更操作に慣れておきたい。	B	・時々、見させていただいていますが、修学旅行中は写真も掲載されていて、安心できました。 ・見やすくてとても良いHPです。 ・幼稚園の入園希望者の多くも、HPを見て連絡してくるケースが多いようです。 ・随時更新がされており、情報発信ができています。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
⑤健康管理	保健管理 保健教育 健康相談	・ 日常の健康観察、定期健康診断の実施 ・ 校内の救急体制を整備し、家庭との連携を密にする。 ・ 生徒の成長や実態に即した健康教育を実施する。 ・ 健康相談の充実を図り、生徒の支援を行う。その際、必要に応じ、スクールカウンセラーとの連絡を密にする。	A	・ もう少し、情報の共有や担任、学年と生徒の仲介としての役割を果たしていきたい。 ・ 心に問題を抱えている生徒が多いため、カウンセラーの存在がとても大事だと思う。また、思春期講座は妊娠・出産などを考える良い機会となった。 ・ きめ細やかな指導は、保護者に安心感を与える。丁寧な指導ができている。	A	・ 充実した学校生活を送るためには、健康が何より大切であり、健康の保持増進への取り組みについては十分できていると思います。今後もきめ細かく対応できる連携体制の充実をお願いします。
	避難訓練 の充実	・ 危機意識を高めるための訓練を実施する。 ・ 南海トラフ地震について知る。 ・ 集団下校訓練を行う。	A	・ 「南海トラフ」に関する講話を全生徒対象に実施（6月1日）。好評であった。集団下校訓練は、様々な問題点が見られ、今後の課題としたい。	A	・ 今後も危機感を持ったご指導をお願いします。 ・ 災害発生時の子供と家庭との連絡の取り方を、確認しておく必要があると思います。 ・ 想定外の出来事に対応できるような、日常の備えが必要だと思います。
⑥安全管理	職員防災 体制の充実	・ 防災関係の職員研修会を実施（7月） ・ 初期消火訓練、救急対策講習会などの実践的訓練を通し、職員の意識向上を図る。 ・ 職員の役割分担の周知、徹底をはかる。	B	・ 本校職員を対象に「南海トラフ地震」に関する講話を実施。（7月4日） ・ 救急対策講習を後期に実施したい。 ・ 発災時、実際に職員がどう対処するのか、地域での役割等も考え、対処法を考えたい。 ・ 防災関係の機器の所在を確認しておきたい。	B	・ 防災に対する意識向上は重要だと思います。消防訓練内容の充実や訓練後の検証を十分に行い、今後の訓練のあり方や防災設備、備品の充実に努めてください。 ・ 私学は地域とのつながりが大切だと思います。